

## 雪に強い町づくり

町、あるいは国や県にまかせっきりだった除雪を、住民も参加して雪に強い町づくりを進めようという動きがでてきました。この計画は、町と国が協力して進められています。

昭和63年から、野沢地区がこの「雪に強い町づくり計画」にとりくんでいます。

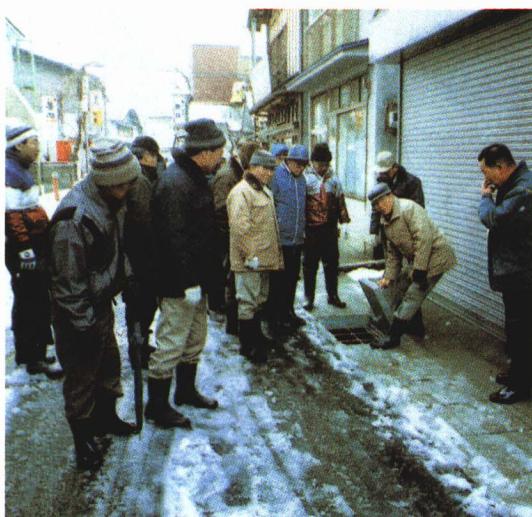
野沢地区は、流雪溝の整備、小型除雪機械の整備、無線しせつの整備を進めています。

流雪溝とは、除雪した雪を道路わきの溝に落とし、水で流すしくみのことです。これには、冬の間使われない農業用水が利用されます。

小型除雪機械（小型ロータリ）は、大型除雪機械が入りこめない道路を除雪しようというもので、町から住民にかしだされます。

無線しせつは、雪についてのいろいろな情報を集めて、除雪をすればやく行おうというものです。

この「雪に強い町づくり」計画は、「すべてにやさしい健康のまちにしあいづ」という願いを、住民の手で西会津全域へ広げようとするものです。



▲流雪溝（野沢）



▲小型除雪機（野沢）